



2010年(平成22年)

7月号(No. 782)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

平成22年度第1回通常総会開催 会員と収入の減少に危機感……	1
平成21年度事業報告……………	4
貸借対照表、正味財産増減計算書…	5
財務諸表に対する注記、財産目録…	6
財産目録記載外のその他物品リスト…	7
収支計算書……………	8
『ヒマラヤ七つの峰の物語』発刊と 『伊犁紀行』寄贈その後……………	9
時代を記憶するアーカイブの映像…	10
山岳フェスティバルー色の古都、トレント…	11
活動報告……………	12
学生部指導委員会／山研運営委員会 有志懇談会	
支部だより……………	14
東京多摩支部／東海支部	
図書紹介……………	15
会務報告……………	16
ルーム日誌……………	16
会員異動……………	17
新入会員……………	17
図書受入報告……………	18
INFORMATION……………	19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時
夏季休室……………8月14日～22日

平成22年度第1回通常総会開催 会員と収入の減少に危機感

高橋重之

平成22年度第1回通常総会が、6月12日、開催された。執行部の若返りから1年、その効果は4つのプロジェクトなどで確実に現われてきたが、なお、会員の減少と収入減にみられるように厳しい状況が続いている。高橋重之会報編集委員に報告してもらった。

平成22年度第1回通常総会が6月12日午後2時から東京・四谷の主婦会館プラザエフで開かれた。会員161人が出席し、①平成21年度事業報告、②平成21年度収支決算・財産目録、③平成22年度除籍予定者について審議し、いずれも原案どおり可決承認した。このあと、新公益法人への対応について、協議事項という形で話し合った(事業報告等の詳細内容は別掲)。

この日の総会には2380の委任状が提出された。出席者・委任状提出者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は有効に成立した。宮崎紘一副会長の司会で議事を進めた。

■会長挨拶

厳しい会の現状を報告

冒頭、尾上昇会長は、厳しい会の現状を説明し「山積している問



厳しい山岳会の現状を訴える尾上昇会長

題の原因は一点に絞られる。会員の減少とそれに伴う収入の減少」と指摘した。そして会の再生のため4つのプロジェクトチームを立ち上げ、それらがいずれも順調に始動したことを報告した。

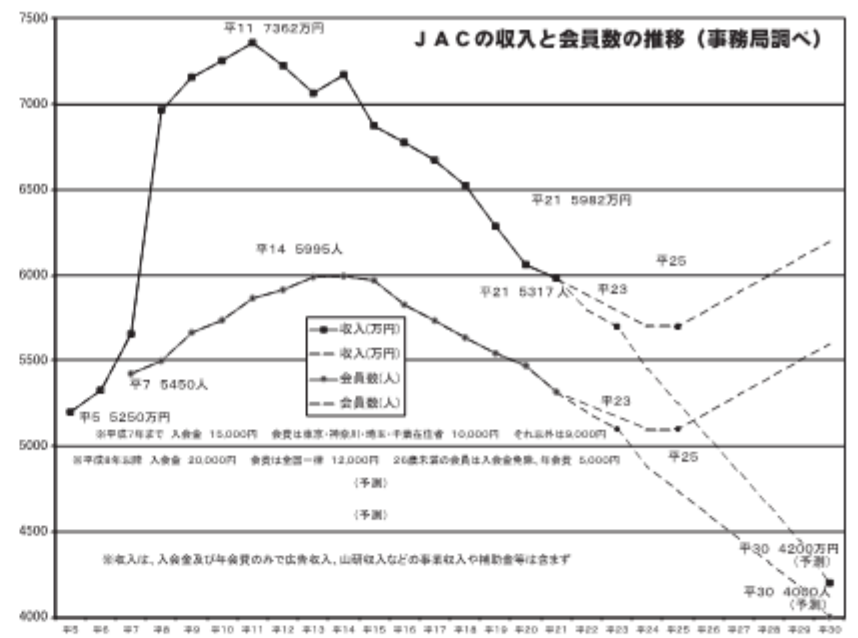
JAC YOUTHで若い人を取り込む。活動の拠点である支部

を活性化する。「山の日」制定運動を進める。また新しい公益法人制度に対応する。

新しい公益法人制度への対応に関連して、事務局体制を強化することを表明した。これまで核になる人がいないため、事務局と会員・委員会の連携が必ずしもうまくいっていない面もあった。加えて、今年暮れに新公益法人への対応を決定し、来年3月あるいは6月の総会で審議する事務手続きに入っていかなければならない。その作業は膨大なものとなる。

グラフで会員・収入の推移示す

「グラフを見ていただきたい」と、会長は、会場正面に大きなグラフを広げて掲示した。平成5年からの日本山岳会の会員数と会費収入



の推移を折れ線で表示したものだ。会長みずから作成した。これによると、会費収入は11年に7362万円、会員数は14年に5995人のピークをつけたあと、いずれも減少傾向が続いている。収入は会費収入と入会金などで、周年事業等の寄付などは含めていない。収入が7年から8年にかけて急に伸びたのは、会費を増額したためだ。

(注)平成7年までは入会金1万5000円、会費は、東京・神奈川・千葉・埼玉在住者は1万円、それ以外は9000円。8年以降は入会金2万円、会費は全国一律1万2000円とし、26歳未満の会員

は入会金を免除、会費は5000円としている。

昨年度は、収入は5982万円まで落ち込み、ついに6000万円を切った。期首会員数は5317人。ピーク時に比べ、収入は1380万円、18・7割、会員数は678人、11・3割の減少だ。この減少傾向を先に延ばして将来を予測すると、平成30年には、会員数は、およそ4000人、収入は4200万円となってしまう。

「そうなれば、会としての体をなさないだろう。しかし、みんなが努力すれば、2年ぐらいあとから劇的にふえていく。若者が山に帰ってきており、これをうまく取り込めば右肩上がりになる」と訴えた。

新しいルームの立ち上げ

会長は、再生のためには新しいルームの立ち上げが必要だろうと、さらに、次のように語って、いくつかの考えを披露した。

一、新しいルームを設置したい。クライミングボードつきのルームを立ち上げ、若い人を呼び込みたい。山に帰ってきている若者

公益法人制度について

昨年9月、理事会の委嘱を受け「法人改革対応検討PT」立ち上げ、平成20年より施行された公益法人改革3法への対応を検討、今年1月に中間報告をした。

メリットの主なものは、公益社団法人の場合、社会的評価が高まるといわれていること、寄付金の優遇税制を享受し得ることである。一般社団法人の場合は、より自由な活動が可能となるが、本会が保有している正味財産額を基礎として算定される公益目的財産額相当額がゼロとなるまでは所管官庁の監督を受ける。

デメリットの主なものは、公益社団法人の場合、所管官庁の監督が続くこと、全費用の50割以上を公益目的事業に支出しなければならぬことが挙げられる。一般社団法人の場合、一般社団法人の新規設立が簡単に行なえることから社会的評価の低下の可能性があること、寄付金の優遇税制の特典が受けられないことである。

さらに、今般の改革では、理事会の権限強化、社員の厳格化、代表理事・業務執行理事制等が法定されているため、定款・規程類の改正も求められている。したがって

を受け入れる環境をつくっていくたい。新しいルームは市ヶ谷のよくな一等地に建てるのは無理とし

て、公益でも一般でも、ある程度の公益目的事業を実施する必要がある、いわゆるガバナンスの強化に努めなければならないことになる。

私どものPTでは、定款等の改正案の策定、事業ごとの区分経理、支部及び支部助成の扱い等について議論をしている。12月までに答申する予定である。

全国2万6000の公益法人、特にスポーツ団体の動き、移行審査を行なう内閣府の公益認定等委員会の動向に注目している。平成25年11月末までに移行を完了しなければならぬ。

近い将来、理事会においていづれかの法人への移行を方向づけすることになるが、現在の組織、事業内容を大きく変更することを想定せずに検討することを基本としつつ、JACが創立105年を迎え、すでに社会的存在として社会一般から認知されていること、今後厳しさが増すであろう財務運営及び会員減少傾向が見込まれている現実を踏まえ、10年後・20年後といった短期ではなく、長期的な視野で移行に対する方向性を見出していきたいと考えている。

(吉永英明)

ても、2億円はかかる費用をどう捻出するかだ。不謹慎だが、大口の寄付に期待したいと思っている。

建設のための検討の場をつくって可能性を議論したい。

一、多くのメールや手紙をいただいた。日本山岳会の伝統、文化をないがしろにしているという批判もあった。図書室が大変狭い。資料室も大変狭く貴重な資料が山積みになっている。新しいルームができれば、これらも解決できるのでは。最終的に日本山岳会の伝統、文化を受け継いでいけるのではないだろうか。

一、永年会員の方々からは、会の財政逼迫に対して協力したいとの申し出をいただいている。あくまで個人の意思として、来年度から、いくらからでも、ご報酬を願っていたい。ご理解を賜りたい。

一、世界的に卓越した山岳登攀を讃える日本山岳会賞を設置しアピールしたい。海外登山遠征隊を派遣したい、とも考えている。

■事業報告・収支決算 会費入会金6000万円切る

議案審議を開始した。宮崎副会長が事業報告を、岡部紘財務担当常務理事が収支決算・財産目録等を説明した。

【事業報告】新しい公益法人制度

に対応させて、大きく公益目的事業と公益目的事業に仕分けした。新しい公益法人法別表に列挙されている23の事業に沿って整理した。児童・青少年の育成、登山教育・啓蒙、環境保全などは、ほとんどが支部での活動だ。公益事業は、会員のための事業であり、集会委員会や総務、図書委員会などで行なう事業が中心。

【収支決算など】21年度の事業活動収入は、6739万円にとどまり、予算を394万円下回った。うち会費・入会金収入は5982万円。6000万円を切ったのは、会費・入会金を増額する前の平成7年以来14年ぶりのことだ。事業



東京多摩支部など新支部長が紹介された

活動支出は7307万円で、収支差額は、568万円のマイナスとなった。大きな支出は、ルーム102号室を購入したことで購入資金1600万円は長期計画準備金を取り崩して充当した。

■監査報告・除籍予定者

これらに対し深川安明監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、また理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。

平成22年度の除籍対象者は72人。会費を20・21年度の2年間滞納している会員が対象となる。1年でもいいから会費を納入してとどまっていきたいとの要請があった。

■協議事項

公益法人移行のメリット・デメリット示す

協議事項という形で、新しい公益法人制度への対応を話し合った。吉永英明・新法人移行プロジェクトチームリーダーが公益法人に移行した場合のメリット、デメリットなどを説明し、質疑を受けた。この日の説明によると、公益社団法人とは、①経費の半分以上を

公益事業に使う、②遊休資産を事業費の1年分以下に抑える、③寄付金の税制優遇措置を受ける、④収益事業を実施してもいいが、収益の50%以上を公益事業にあてる、などの団体だ。

日本山岳会の、いまの活動を精査すると、54%が公益事業に該当するそうだ。今年12月中には最終答申を提出して方向性を示し、来年3月あるいは6月の総会で審議する段取りだ。定款を変更するとともに図書利用規定、秩父宮記念山岳賞実施規定などを改正していく。

■質疑・意見表明

公益・一般も公益活動必要

吉永チームリーダーの説明に対し、新公益法人への質疑、意見表明が相次いだ。

早田道治会員(5626) 岐阜

支部では、県の指名で県民の森づくりに協力している。森林パトロールや夜叉ヶ池清掃などの活動も行なっている。ぜひ公益法人をめざしていただきたい。

篠田一郎会員(4345) 一般

法人になった場合のメリット、デメリットはなにか。

(社) 日本山岳会 平成21年度事業報告(主な事業)

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1. 公益目的事業**(1) 登山に関する文化・学術の振興事業**

4月～11月	ミニ水力発電装置運用(山研)
4月～10月	藤島玄文庫分類整理・一般公開(越後)
6月	英文ジャーナル(Japanese Alpine News vol.10)の発行
6月6日～7日	第63回ウェストン祭(上高地)(信濃)
9月28日	『山岳』104年(2009年)の発行(山岳編集)
10月17日	第13回全国山岳博物館等連絡会議(資料映像)
12月5日	第10回秩父宮記念山岳賞
2月・7月	海外登山助成金の審査・交付
通年	会報『山』767号～778号の発行
通年	図書室の整備・研究(図書管理・図書)
通年	登山資料・山岳絵画の整備(資料映像)
通年	「山の日」プロジェクトの推進

(2) 児童・青少年の育成事業

5月10日・11月29日	視覚障害者登山(東海)
7月18日	第1回福祉サポート登山(宮城)
7月19日	青少年体験登山大会(東九州)
7月30日～8月2日	第10回自然児学校(北海道)小中学生19名参加
7月28日～29日	少年少女登山教室(青森)参加者14名
8月1日～2日	第12回子ども登山教室(宮崎)参加者51名
10月3日・11月24日	親と子のふれあい登山教室(東海)
10月15日	家庭裁判所短期少年補導委託登山(宮崎)参加者30名
11月8日	第16回視覚障害者支援登山大会(東九州)

(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業

5月10日	播磨祭・記念登山(高頭山)(富山)参加者約50名
5月30日～31日	泰澄祭(福井)
6月7日・9月13日	JAC会員と一緒に登ろう(山形)参加者延べ65名
6月6日～7日	今西レリーフを守る会(京都)
6月14日	第2回登山教室(熊本)
7月4日	第5回山の博覧会(山梨)
7月25日	第52回高頭祭(越後)
7月26日	第2回山岳映画の夕べ(栃木)参加者92名
9月27日	藤木祭(関西)参加者150名
9月27日	山岳映画・講演会(千葉)
10月11日	第1回房総半島分水嶺踏査(千葉)
10月17日～18日	第50回木暮祭(山梨)参加者120名
11月2日～3日	第25回宮崎ウェストン祭(宮崎)
11月18日	第1回「ヒマラヤの集い」(栃木)参加者50名
11月28日	秋期講演会(栃木)参加者50名
1月～12月	近畿分水嶺踏査(関西)12回参加延べ人数347名(うち会員305名)
2月19日	第2回山岳講演会(富山)参加者約70名
2月28日	シンポジウム「登山を楽しくする科学」(科学)参加者約100名
通年	登山講座運営(中国新聞社文化センター)(広島)
春季・秋季	NHK文化センター登山教室(東海)

(4) 事故防止事業

7月20日	講演会「山登りで起こる疾病対策」(岩手)参加者150名
8月8日	講演会「高所登山における突然死を考える」(医療)
10月	講習会「山岳遭難救助の実際」(指導)参加者30名
11月	講習会「ロープワーク講習会」(指導)参加者約30名
12月	講習会「救急法」(指導)参加者約20名
12月～1月・5月	携帯メールで読める登山者のための天気予報(指導)
12月～2月	雪崩研修(北海道)
1月	実地講習会「BC滑走時におけるセルフレスキュー」(指導)参加者10名
1月～3月	雪山入門講習会(実地)(指導)参加者延べ30名
2月20日～21日	大山冬山パトロール(山陰)

(5) 山岳環境保全事業

4月～11月	夜叉ヶ池を守るパトロール(福井)
4月～12月	権現の森林づくり(岐阜)参加者延べ196名
5月2日～3日	白山山系現況調査事業(石川)
5月～9月	山岳レインジャー活動(山梨)
6月7日	九重山系標識等の設置・補修、木道点検・修理(東九州)
6月13日～9月12日	真富士山山道整備(静岡)
6月14日	故郷古道復興事業(石川)参加者15名

吉永チームリーダー メリット

は自由度が増すということだ。役所の指導・監督から外れる。ただし、正味財産を公益事業に使わなければならない、なくなるまで監督下に置かれる。デメリットは、社会的評価が落ちる可能性のあること、寄付に対する税制優遇措置を受けられないことだ。

長田義則会員(5465) 日本

山岳会に入会するにあたって、公益事業を実施することなどを、事前に丁寧に説明する必要がある。あとで公益事業への参加を指示さ

れ、トラブルを引き起こしかねない。秩父宮記念山岳賞は一般に公開されていたのでは。

吉永チームリーダー 秩父宮記

念山岳賞は、最初は一般に門戸を開いていたが、途中から会員を対象とするようになった。

石岡慎介会員(12196) 高

尾の森で500人近い人が植樹祭に参加していた。熊野古道では地域の人が復活に努力したと聞いたが、なかに日本山岳会の会員がいた。自分たちだけが楽しむのではなく大きな流れがあると感じ

ている。

堂本暁子会員(5096) 「山に

登る時代」から「山を大切にする時代」に移行している。クライミングの好きな若者がいる。自然保護に熱心な若者がいる。日本山岳会が公益法人になろうと、一般法人になろうと、公益活動をやらなければならないだろうと思っている。

■新支部長紹介

東京多摩、埼玉など

最後に、新しい支部長が紹介さ

れた。今年2月発足した東京多摩は竹中彰氏、4月発足の埼玉は石橋正美氏、東海は小川務氏、山陰は白根一氏、信濃は飯村富彦氏。小川東海支部長は「来年50周年を迎える。ひとつひとつ実行していくことが日本山岳会の発展につながる」と語った。竹中東京多摩支部長は「今年9月に東京多摩支部主管で全国支部懇談会を実施する」と協力を呼びかけた。総会終了後、懇親会を開いた。神崎忠男副会長が音頭をとって乾杯し和やかな歓談が続けた。

貸借対照表

平成22年3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	159,811	355,572	-195,761
振替貯金	1,245,592	2,183,490	-937,898
普通預金	2,969,520	3,917,740	-948,220
未収会費	4,200,000	4,752,000	-552,000
その他未収金	162,500	0	162,500
貯蔵品	2,148,964	1,935,933	213,031
流動資産合計	10,886,387	13,144,735	-2,258,348
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託	8,000,000	8,000,000	0
基本財産合計	8,000,000	8,000,000	0
(2) 特定資産			
長期計画準備金	8,243,000	26,246,305	-18,003,305
秩父宮記念基金	50,000,000	50,000,000	0
終身会費積立金	9,262,000	10,422,000	-1,160,000
海外登山基金	58,800,000	58,800,000	0
遭難防止事業基金(森基金)	10,000,000	10,000,000	0
退職引当預金	3,423,307	3,423,307	0
特定資産合計	139,728,307	158,891,612	-19,163,305
(3) その他の固定資産			
土地	86,737,705	74,953,705	11,784,000
建物	84,816,392	85,849,680	-1,033,288
敷金	288,450	288,450	0
什器備品	68,396	136,793	-68,397
発電装置	2,027,650	2,199,403	-171,753
その他の固定資産合計	173,938,593	163,428,031	10,510,562
固定資産合計	321,666,900	330,319,643	-8,652,743
資産合計	332,553,287	343,464,378	-10,911,091
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	98,000	111,000	-13,000
預り金	322,752	245,423	77,329
仮受金	0	16,840	-16,840
流動負債合計	420,752	373,263	47,489
2 固定負債			
退職給与引当金	3,423,307	3,423,307	0
固定負債合計	3,423,307	3,423,307	0
負債合計	3,844,059	3,796,570	47,489
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	328,709,228	339,667,808	-10,958,580
(うち基本財産への充当額)	(8,000,000)	(8,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(136,305,000)	(155,468,305)	(0)
正味財産合計	328,709,228	339,667,808	-10,958,580
負債及び正味財産合計	332,553,287	343,464,378	-10,911,091

正味財産増減計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	13,437	22,798	-9,361
受取会費・受取入会金			
入会金	1,980,000	1,800,000	180,000
通常会費	57,001,000	58,518,000	-1,517,000

6月20日～21日 自然保護全国集会(自然保護・秋田)参加者148名
6月 太平山山開き清掃登山をサポート(秋田)参加者12名
6月～9月 高山植物盗掘防止事業(北海道)延べ147回、35人
6月・9月 白神山地ブナ林再生事業(青森)
7月5日 高山植物盗掘防止パトロール(青森)
7月 高山植物植生調査(継続事業)(山形)
8月29日～30日 白山山系現況調査事業(石川)
9月6日 富士山山肌清掃(静岡)
10月31日～11月1日 第13回森の勉強会(京都)参加者33名
12月 世界自然遺産プロジェクト発足(自然保護)
3月28日 英彦山清掃登山(北九州)参加者31名
通年 高尾の森づくり(自然保護)
通年 猿投の森での調査活動(東海)
通年 藤尾の森づくり(京都)
通年 大山頂上の保護事業(山陰)
通年 森林保全巡視活動(北九州)
通年 宮崎水源森づくり育林活動(宮崎)年4回延べ82名

(6) 国際交流事業

8月18日～27日 日中韓学生交流登山(中国青海省玉珠峰)(学生)日本側学生参加者9名

(7) その他目的を達成するための事業

山岳遭難の予防と対策に関する関係団体との協議

国内関係団体(日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本ネパール協会、日本ヒマラヤ協会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、日本山岳文化学会)との連携

海外登山団体との情報交換及び機関誌の交換等

国内博物館・美術館との提携

「上高地山岳研究所」の運用

登山記録等の保存・整備

2. 共益目的事業(会員のための事業)

(1) 登山、集会、施設の運用等

4月4日 講演会「語り継ぐ日本山岳会の歴史」(資料映像)
5月 学生部所属大学山岳部新入部員歓迎会(学生)参加者15名
6月6日～7日 新入会員のための徳本峠越えとウェストン祭(山研)
6月10日～14日 熊野古道(集会)参加者20名
7月5日～6日 高山植物を楽しむ会(集会)参加者15名
7月12日 支部設立50周年記念山行(秋田)
8月1日～2日 上高地山研集会(石川)参加者16名
8月17日～27日 イタリア・ドロミテ(集会)15名
9月5日～7日 剣岳山行(集会)15名
9月26日 5支部合同懇親山行(立山)(富山)参加者51名
10月11日 学生部所属大学山岳部マラソン大会(学生)参加者80名
10月17日～18日 那須三本槍岳紅葉山行(集会)15名
10月25日 第25回全国支部懇談会(リステル猪苗代)(福島)参加者約150名
10月30日 第38回山岳史懇談会(図書)
11月7日 新入会員オリエンテーション(総務)
12月5日 平成21年度年次晩餐会(総務)
12月6日 晩餐会記念山行(集会)
12月14日 第17回山を語る(図書)
1月15日～17日 スキー懇親会(集会)参加者24名
1月20日～27日 カウアイ・マウイ島トレッキング(集会)21名
2月 アイスクライミング集会(学生)参加者10名
2月6日～7日 三支部合同懇談会と山行(茨城)参加者51名
3月6日 第27回図書交換会(図書)
通年 インターネットホームページの運営(インターネット)
隔月発行 機関紙『木の目草の芽』の刊行(自然保護)

(2) 海外登山等

7月18日 第10次インドヒマラヤ登山隊未踏峰(6066m)登頂(東海)
8月19日～10月16日 学生部パンボチェ登山隊2009(学生)隊員6名

(3) 会議等

通常総会の開催(5月23日・3月13日)

理事会の開催(11回)

常務理事会の開催(11回)

支部長会議(5月23日・9月12～13日・12月5日)

支部事務局担当者会議の開催(1月30～31日)

評議員会の開催(4月18日・10月24日・3月6日)

同好会・同期会連絡会議(6月22日)

(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	179,933	-179,933
当期一般正味財産増減額	-10,958,580	-6,664,421	-4,294,159
一般正味財産期首残高	339,667,808	346,332,229	-6,664,421
一般正味財産期末残高	328,709,228	339,667,808	-10,958,580
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	328,709,228	339,667,808	-10,958,580

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
貯蔵品として出版物及び服飾品、その他がある。
購入時の原価によって評価している。
- (3) 固定資産の減価償却について
事務室・集会室・図書室：耐用年数50年・残価率10%の定額法による。
104号室：耐用年数23年・残価率10%の定額法による。
102号室：耐用年数19年・残価率0の定額法による。
上高地山岳研究所：鉄筋コンクリート造部分耐用年数50年・残価率10%、木造部分耐用年数22年・残価率10%の定額法による。
ミニ水力発電装置：耐用年数20年・残価率10%の定額法による。
- (4) 引当金の計上基準
退職給与引当金は期末退職給与の自己都合による要支給額を計上している。
- (5) 消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
基本財産				
貸付信託（中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
小 計	8,000,000	0	0	8,000,000
特定資産				
長期計画準備金	26,246,305	0	18,003,305	8,243,000
秩父宮記念基金	50,000,000	0	0	50,000,000
終身会費積立金	10,422,000	840,000	2,000,000	9,262,000
海外登山基金	58,800,000	0	0	58,800,000
遭難防止対策基金	10,000,000	0	0	10,000,000
退職給付引当預金	3,423,307	0	0	3,423,307
小 計	158,891,612	840,000	20,003,305	139,728,307
合 計	166,891,612	840,000	20,003,305	147,728,307

3. 関連当事者との取引の内容

該当事項はありません。

財 産 目 録

平成22年3月31日現在

科 目	金 額
Ⅰ 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
現 金 現金手許有高	159,811
振替貯金 千代田四番町郵便局	1,245,592
普通預金 りそな銀行市ヶ谷支店	1,383,446
〃 三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店	410,809
〃 中央三井信託銀行本店	355,945
〃 みずほ銀行市ヶ谷支店	367,250
〃 三井住友銀行飯田橋支店	276,235

終身会費	840,000	300,000	540,000
会費・入会金計	59,821,000	60,618,000	-797,000
事業収益			
広告料	1,741,580	2,313,500	-571,920
刊行物売上	186,930	234,220	-47,290
山研使用料	1,925,508	1,710,329	215,179
その他事業収益	1,247,790	2,227,089	-979,299
事業収入計	5,101,808	6,485,138	-1,383,330
受取補助金等			
補助金	1,000,000	765,000	235,000
受取寄付金			
寄付金	35,918	1,176,943	-1,141,025
雑収益			
受取利息	302,399	467,154	-164,755
その他雑収益	1,114,936	1,256,245	-141,309
雑収入計	1,417,335	1,723,399	-306,064
繰入金			
百周年会計繰入金	0	372,788	
経常収益計	67,389,498	71,164,066	-3,774,568

科 目	当年度	前年度	増 減
(2) 経常費用			
事業費			
出版事業費	10,660,428	10,237,598	422,830
図書管理事業費	187,956	114,876	73,080
調査研究事業費	1,214,827	1,456,277	-241,450
指導研究事業費	819,055	301,158	517,897
支部事業費	10,363,781	12,005,098	-1,641,317
海外事業費	144,176	248,924	-104,748
山岳研究所事業費	2,184,336	1,571,481	612,855
山岳研究所管理費	2,644,584	2,568,460	76,124
ミニ水力発電運営費	67,820	37,700	30,120
発電装置減価償却費	171,753	171,753	0
海外登山補助費	900,000	1,200,000	-300,000
その他事業費	11,859,737	11,550,047	309,690
刊行物発送費	4,072,066	4,965,163	-893,097
事業費計	45,290,519	46,428,535	-1,138,016
管理費			
給料手当	12,388,137	12,521,440	-133,303
文具消耗品費	67,732	90,579	-22,847
印刷製本費	1,038,193	1,234,086	-195,893
旅費交通費	552,855	806,744	-253,889
通信運搬費	521,469	584,141	-62,672
火災保険料	205,140	182,970	22,170
修繕費	0	0	0
租税公課	871,772	581,300	290,472
光熱水料費	657,084	685,231	-28,147
電話料	251,355	294,568	-43,213
会議費	81,494	120,098	-38,604
什器備品費	0	0	0
振替手数料	637,575	649,632	-12,057
福利厚生費	1,984,821	1,723,962	260,859
事務所管理費	1,842,037	1,309,960	532,077
その他管理費	1,952,803	1,717,710	235,093
負担金	30,160	30,000	160
賃借料	3,240,000	3,240,000	0
建物減価償却費	5,249,288	5,064,376	184,912
什器備品減価償却費	68,397	0	68,397
雑費	1,417,247	743,088	674,159
管理費計	33,057,559	31,579,885	1,477,674
経常費用計	78,348,078	78,008,420	339,658
当期経常増減額	-10,958,580	-6,844,354	-4,114,226

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
棚卸資産増加額	0	179,933	-179,933
経常外収益計	0	179,933	-179,933

B. 上高地山岳研究所 (H5.8.21 取得)	
場所 長野県松本市安曇 4469 番地 1	(取得価格)
構造 木造 2 階建地下 1 階 (一部コンクリート造) 1 棟 274.09㎡	118,000,000
	(当期末残高)
	53,164,476
C. ミニ水力発電装置 (H11.11.30 取得)	
場所 長野県松本市安曇 4469 番地 1	(取得価格)
(上高地山岳研究所)	3,816,750
構造 1kw 発電用	(当期末残高)
	2,027,650
合 計	173,581,747

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈益)

1. 絵 画

題 名	種類・号数	作者名	掲載・保管場所
シュラギントワイト・アトラス	リトグラフ	シュラギントワイト兄弟	本 会
白馬岳	油一 A50	中村 清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油一 A25	茨木 猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形一 6	中村 清太郎	本 会
群猿	墨絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油一 10	茨木 猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油一 10	茨木 猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油一 10	茨木 猪之吉	本 会
鳥 (カット原画)	墨絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ遠望	エッチング	シュラギントワイト	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
涸沢より北穂高	水彩一 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油一 10	中村 清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎 千代二	本 会
北穂高岳滝谷	油一 25	足立 源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油一 25	足立 源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油一 25	足立 源一郎	本 会
朝の槍ヶ岳	油一 P8	足立 源一郎	本 会
タンボチェの僧院	水彩一 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩一 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油一 12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画一 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩一 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画一 8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油一 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晚霞	本 会
上高地秋景	油一 F20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油一 20	武井 清	本 会
朝霧	水彩一 8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油一 6	茨木 猪之吉	本 会
麓春	油一 P50	倉員 辰雄	本 会
ヒマラヤダージリンにて	油一 F4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油一 30	武井 清	本 会
安曇野の春	油一 30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油一 30	藤江 幾太郎	本 会
アルパータ	油一 6	レオン・アマン	本 会
ケルン	油一 6	金光 義朗	上高地山岳研究所
山	油一 6	辰沼 広吉	本 会
アルパータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24 枚	油一 10	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 8 枚	油一 6	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 12 枚	水彩	茨木 猪之吉	本 会
スケッチブック	32 冊	茨木 猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会

〃 三菱東京UFJ銀行新宿支店	134,124		
通常貯金 千代田四番町郵便局	41,711		
未収会費 350名	4,200,000		
その他未収金	162,500		
貯蔵品 (注) 1	2,148,964		
流動資産合計		10,886,387	
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託 中央三井信託銀行	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2) 特定資産			
長期計画準備金			
(定期預金 千代田四番町郵便局)	5,043,000		
(定期預金 三菱東京UFJ市ヶ谷)	3,200,000		
秩父宮記念基金			
(定期預金 三菱東京UFJ新宿)	20,000,000		
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	30,000,000		
終身会費積立金			
(普通預金 みずほ市ヶ谷)	9,262,000		
海外登山基金			
(定期預金 りそな市ヶ谷)	33,600,000		
(定期預金 三井住友飯田橋)	25,200,000		
遭難防止事業基金			
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	10,000,000		
退職引当預金			
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	3,423,307		
特定資産合計	139,728,307		
(3) その他の固定資産(注)2			
土 地	86,737,705		
建 物	84,816,392		
敷 金	288,450		
什器備品	68,396		
発電装置	2,027,650		
その他固定資産合計	173,938,593		
固定資産合計		321,666,900	
資産合計			332,553,287
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
前受会費 平成22年度会費 9名分	98,000		
預り金 職員に対する源泉所得税その他	322,752		
流動負債合計		420,752	
2 固定負債			
退職給与引当金			
固定負債合計	3,423,307	3,423,307	
負債合計			3,844,059
正味財産合計			328,709,228

(注) 1 貯蔵品内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	『山岳』総索引、『山岳』覆刻版 等	673,390
服飾品、その他	クラブタイ、Tシャツ 等	1,475,574
合 計		2,148,964

(注) 2 その他固定資産内訳

1. 建物、土地および装置

A. 事務所および土地 (S53.1.24 及び H17.10.30 取得)		
場所 東京都千代田区四番町 5 番 4 号		
構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下 1 階付 5 階建		
(事務所) 区分所有建物 1 階部分 103.32㎡ (専有部分)		
宅地持分 1,124.56㎡×339/10,000 = 38.122584 ㎡		(取得価格)
(図書室) 区分所有建物 1 階部分 55.22㎡ (専有部分)		土地
宅地持分 1,124.56㎡×176/10,000 = 19.792256 ㎡		86,737,705
(104 号室) 区分所有建物 1 階部分 80.36㎡ (専有部分)		建物
宅地持分 1,124.56㎡×261/10,000 = 29.351016 ㎡		50,662,465
(102 号室) 区分所有建物 1 階部分 27.83㎡ (専有部分)		(当期末残高)
宅地持分 1,124.56㎡×93/10,000 = 10.458408 ㎡		
計 266.73㎡ 宅地持分 97.724264 ㎡		118,389,621

光熱水料費	620,000	657,084	-37,084
電話料	300,000	251,355	48,645
会議費	100,000	81,494	18,506
什器備品費	300,000	0	300,000
振替手数料	650,000	637,575	12,425
福利厚生費	1,600,000	1,984,821	-384,821
事務所管理費	1,500,000	1,842,037	-342,037
その他管理費	1,800,000	1,952,803	-152,803
負担金	30,000	30,160	-160
賃借料	3,240,000	3,240,000	0
雑費	600,000	1,417,247	-817,247
管理費計	26,263,000	27,825,034	-1,562,034
事業活動支出計	70,983,000	73,071,671	-2,088,671
事業活動収支差額	352,000	-5,682,173	6,034,173

シダング山 晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧 潤一	本 会

(他の絵画, 写真 省略)

2. 図 書

和 書	平成 21 年度受入冊数	113 冊	蔵書計	11,767 冊
洋 書	平成 21 年度受入冊数	16 冊	蔵書計	3,846 冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15 点	『マナスルに立つ』 他
ビデオ	294 点	『映像史 ヒマラヤへの道』 他
D V D	32 点	『エベレスト征服』 他

収 支 計 算 書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定預金取崩収入				
長期計画準備金	0	18,003,305	-18,003,305	
終身会費積立金	0	2,000,000	-2,000,000	
特定預金取崩収入計	0	20,003,305	-20,003,305	
投資活動収入計	0	20,003,305	-20,003,305	
2. 投資活動支出				
固定資産取得支出				
土地購入支出	0	11,784,000	-11,784,000	
建物建設購入	0	4,216,000	-4,216,000	
固定資産取得支出計	0	16,000,000	-16,000,000	
特定預金支出				
終身会費積立金支出	200,000	840,000	-640,000	
退職給与引当預金支出	100,000	0	100,000	
特定預金支出計	300,000	840,000	-540,000	
投資活動支出計	300,000	16,840,000	-16,540,000	
投資活動収支差額	-300,000	3,163,305	-3,463,305	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	2,000,000	0	2,000,000	
当期収支差額	-1,948,000	-2,518,868	570,868	
繰越収支差額	10,835,539	10,835,539	0	
次期繰越収支差額	8,887,539	8,316,671	570,868	

(注)1 電源開発㈱「マッキンリープロジェクト」助成金 ￥1,000,000
(注)2 資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費、預り金、仮受金及び未払金を含めている。
(注)3 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	6,456,802	4,374,923	
未 収 会 費	4,752,000	4,200,000	
その他未収金	0	162,500	
合 計	11,208,802	8,737,423	
前 受 会 費	111,000	98,000	
仮 受 金	16,840	0	
預 り 金	245,423	322,752	
合 計	373,263	420,752	
次期繰越収支差額	10,835,539	8,316,671	

社団法人 日本山岳会 平成 21 年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、および収支計算書を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成22年4月23日

社団法人 日 本 山 岳 会
監 事 深 川 安 明
監 事 平 井 拓 雄

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入				
基本財産利息収入	15,000	13,437	1,563	
会費・入金収入				
入金収入	2,200,000	1,980,000	220,000	
通常会費収入	59,300,000	57,001,000	2,299,000	
終身会費収入	200,000	840,000	-640,000	
会費・入金収入計	61,700,000	59,821,000	1,879,000	
事業収入				
広告料収入	2,300,000	1,741,580	558,420	
刊行物売上収入	200,000	186,930	13,070	
山研使用料収入	2,000,000	1,925,508	74,492	
その他事業収入	2,000,000	1,247,790	752,210	
事業収入計	6,500,000	5,101,808	1,398,192	
補助金等収入				
補助金収入	1,500,000	1,000,000	500,000	(注)1
寄付金収入				
寄付金収入	0	35,918	-35,918	
雑収入				
受取利息	320,000	302,399	17,601	
雑収入	1,300,000	1,114,936	185,064	
雑収入計	1,620,000	1,417,335	202,665	
事業活動収入計	71,335,000	67,389,498	3,945,502	

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
2. 事業活動支出				
事業費				
出版事業費	10,900,000	10,607,188	292,812	
図書管理事業費	300,000	187,956	112,044	
調査研究事業費	1,700,000	1,205,847	494,153	
指導研究事業費	430,000	798,095	-368,095	
支部事業費	11,000,000	10,363,781	636,219	
海外事業費	150,000	142,196	7,804	
山岳研究所事業費	1,820,000	2,184,336	-364,336	
山岳研究所管理費	3,070,000	2,644,584	425,416	
ミニ水力発電運営費	150,000	67,820	82,180	
海外登山補助費	1,500,000	900,000	600,000	
その他事業費	9,500,000	12,072,768	-2,572,768	
刊行物発送費	4,200,000	4,072,066	127,934	
事業費計	44,720,000	45,246,637	-526,637	
管理費				
給料手当	12,000,000	12,388,137	-388,137	
文具消耗品費	100,000	67,732	32,268	
印刷製本費	1,250,000	1,038,193	211,807	
旅費交通費	700,000	552,855	147,145	
通信運搬費	650,000	606,629	43,371	
火災保険料	183,000	205,140	-22,140	
修繕費	60,000	0	60,000	
租税公課	580,000	871,772	-291,772	

トピックス

『ヒマラヤ七つの峰の物語』発刊と
『伊犁紀行』寄贈その後

江本嘉伸

会報5月号で故織内信彦副会長
が大事にしていた日野強著『伊犁
紀行』が日本山岳会に寄贈された

ことを紹介した。その文章に対し
高齢の会員の方から「伊犁とはど
う読むのか。そもそも私の年齢で
読めない」ということは、ほかの会
員もわからないはず」と山岳会事
務局に問い合わせがあった、と聞
いた。「このような貴重な本に会
員は大きな興味を持っているから、
もう少しきちんと紹介を」と要望
された、とも。日野強の名とともに
に日本山岳会会員なら自明のこと
としていた思いこみを反省し、5
月号記事の後日談とともに紙数の
範囲で補足する。

伊犁は、「イリ」と読み、現在
の中国新疆ウイグル自治区北西
部およびカザフスタン共和国南東
部の地方を指す。天山山脈を源と
して西流する伊犁川の流域で、こ
の地方が近代史の中で重要なのは、
ロシア、中国（清朝）との国境地

帯にあつて「新疆の鍵」と呼ばれ
る要衝だからだ。

1860年代、清朝の支配に対
してイスラム教徒の反乱が続発。
南進政策を続けていたロシアがこ
れに乗じて1871年にイリ地方
を占領したため、露清間に「伊犁
事件」と呼ばれる紛争が起きた。

日露戦争に辛うじて勝った日本
の軍部は、ロシアのリベンジを警
戒していたらしい。1906年7
月「その筋から」新疆視察の内命
を受けた陸軍歩兵少佐の日野の目
的は、ロシア軍の動きを含む伊犁
情勢を把握することだった。

中国語が達者だった日野強は、
「熙強」という名の中国人になり
すまして、10月北京を発ち、西安
から馬車で河西回廊をたどってト
ルファン、ウルムチへと進んだ。
中国に精通している上原多市とい
う青年を随行者とした。

伊犁からは天山南路に出てカシ
ュガルを経由してインドに抜けた

が、その際日本人として初めてカ
ラコルム峠を越えたことは、5月
号でふれた通りである。スリナガ
ルで、イギリスの駐在官であった
探検家ヤングハズバンドに会って
いる。1907年12月24日帰国。
1906年9月7日に出発して以
来474日の旅であった。

日野強の旅の詳細については紙
数がない。1973年に芙蓉書房
から発行された「復刻版」を入手
して読むのが一番だが、当時の各
国の情報戦を含めて含蓄の深い読
み物として、金子民雄氏の労作『中
央アジアに入った日本人』（新人物
往来社1973年）をお薦めする。

5月号では織内さんの愛蔵書で
あつたこの『伊犁紀行』の初版本
が日本山岳会に寄贈された経緯に
ついてお伝えした。生前、親族の
ように世話をしてくれた宮澤美渚
子会員に、織内さんがこの貴重本
を形見として贈ったこと、そして
今、ガンにかかった宮澤さんがそ
の本をあらためて日本山岳会に寄
贈されたこと、などだ。

9月には喜寿の歳を迎えるその
宮澤会員が6月末、『ヒマラヤ七
つの峰の物語』という小冊子を刊
行された。信頼できるシェルパと

小さなチームを組み、七つの60
00^{メートル}峰に登った記録。1994
年のコンデ・リ（6187^{メートル}）を
手始めに、ピサンピーク（609
1^{メートル}、96年）、パルチャモ（62
73^{メートル}、97年）、クロスピーク（6
510^{メートル}、初登頂、98年）、ダン
プシュピーク（6035^{メートル}、20
00年）、アイランド・ピーク（6
169^{メートル}、01年）、ロブチェピー
ク（6119^{メートル}、02年）と、すべ
て還暦以後の挑戦だ。

農大山岳部OBであつた夫君と
2人でのクロスピーク登山は、体
調不良の夫にかわって妻の宮澤さ
んが登頂するというドラマがあり、
その記録は『ヒマラヤ一つの峰の
物語』（宮澤憲著・東京新聞出版局）
として出版された。今回宮澤会員
は、ガンに加えて大脳動脈瘤の発
症という自身の命との闘いのなか
で、タイトルをそろえ『七つの峰の
物語』74ページにまとめた。1万60
00名に及ぶすべての日本山岳会
入会者リストの作成など『百年史』
の制作にも陰ながら貢献した宮澤
さんにとって初めての個人的な作
品。限定100部だが、「万一ご希
望あれば」会員にはお分けする、
とのこと。問い合わせは事務局へ。

カルチャー

時代を記憶するアーカイブの映像

羽田栄治

資料映像委員会では、年に2回ほどアーカイブと呼ばれる山岳映画の名作を上映し、作品の鑑賞を兼ねて映像の持つ記録性についてアピールしている。ところで、アーカイブとは何だろう……。本来の意味が理解されないまま、用語だけが独走しているようなので、改めて説明してみたい。

さて、アーカイブスと名のつくNHKの番組を視聴された方も多いと思う。番組は、かつて放映された作品がほとんどで、いずれも後世に遺しておきたいドキュメンタリーやドラマの名作である。同局では、2003年、埼玉県浦和に「NHKアーカイブス」を開設。

この施設は、当時、過去50年間の映像記録約59万本を収録、この膨大な映像ソフトは「国民共有の文化財産」として第2次利用に活用するのが目的という。この番組の影響であろうか、アーカイブというカタカナ語が一般の人たちにも知られるようになった。

アーカイブ(ARCHIVE)、英語で「記録保管所、時代を記録した貴重な映像やテキストなどを保存する機能や施設」のこと。カタカナ語辞典(三省堂刊)では「①大規模な記録や資料のコレクション、または公文書の保管施設、②デジタル化されたデータを圧縮する技術や方法」と説明されている。①はIT時代の今日、コンピュータ用語としても使われている。このようにアーカイブは、今社会のなかでようやく普及し始めた用語だが、その意味には、画一的な定義がないようだ。

では、アーカイブの果たす役割を、映像の記録性から捉えてみたい。①貴重な映像(フィルム)の収集、②劣化や退色現象があれば補修して管理保存、③資料の整理と作成、④公開。以上の4つが主な役割であるが、とくに④が最も大切な役割・目的でもある。

登山の記録において、映像に勝るメディアは他にあるまい。たとえ



1936年、日本初のヒマラヤ登山の記録映画『ナンダ・コート征服』より

ば1936年の日本初のヒマラヤ登山「ナンダ・コート登頂」、戦後1956年日本人初の8000メートル峰「マナスル登頂の記録」、1977年の日本山岳協会による「日本K2登山隊」の壮挙もフィルムで撮られ、日本登山史を記憶した貴重な映像だ。

2005年に日本山岳会創立100年を記念して資料映像委員会は『写真で見る日本山岳会の100年』をまとめた。このなかには1909年7月、石崎光瑤撮影「剣岳初登頂の記念写真」や、1913年8月、大木操撮影「上高地河童橋上のW・ウェストン夫婦と

上條嘉門次の写真」など山岳会草創期の貴重な写真も収録されている。JACフォト・アーカイブといっても過言ではなからう。

アーカイブの目的は公開することにある。国立民族学博物館や京都大学学術出版会でも、1950年代に撮られた『カラコルム』『花嫁の峰 チョゴリザ』などを公開し、フィールド科学のパイオニアの足跡を見てもらっている。

当会ではそれぞれの時代を記録した多くの写真やフィルム、ビデオテープ、DVDを保有しているが、保存や管理に問題を抱えている。それはフィルムの劣化、退色、カビ侵食などだ。それに対処するため一部をVTRに、写真はデータ・デジタル化への変換を行なっている。だがこれには相当の時間と膨大な費用が発生するため、解決への糸口は閉塞状態にある。

先人たちによって育まれた世紀を超えた貴重な記録は、当会だけでなく日本登山界にとってかけがえのない財産である。また、アーカイブの映像は人類の貴重な文化遺産でもある。ここで、映像の記録性を改めて認識していただくことを願うものである。

トラベル

山岳フェスティバル一色の古都、トレント

中村 保

5月3日、ベルガモ北東のソングバツソという600人ほどの小さな村で講演をしました。村の大きなレストランが会場で、100名ほど集まってくれました。翌朝、「第58回トレント・フィルム・フェスティバル」の開催地である北イタリアの古都・トレントに向かいました。

フェスティバルは4月29日から5月9日まで開催されました。今年で58回を迎える、世界で一番歴史ある山岳関係のフィルム・フェスティバルです。25年前からブックフェアも始めました。ドロミテの玄関、ボルツァーノとトレント市の市議会とイタリア山岳会がパートナーとして企画・資金集めを担ってきました。

今年は、若手のイベント関係者と、登山家のチームが協力しプロジェクトの設計・遂行にあたりました。350以上の新しいフィルム・映像が世界から提供され、ブックフェアには08年から09年の

新刊本とジャーナルが紹介されていました。

トレントの街はフェスティバル一色で、街角にはいたるところで案内板が目にとまりました。映像では『ヨセミテ・ハーフトームの記録的な登攀』など、講演では私の『ヒマラヤの東——チベットのアルプス』のほかに、鼎談ではクルト・ディームベルガーらによる「ヒマラヤの魅力を語る」が注目を集めていました。

ブックフェアには、日本山岳会の英文ジャーナル『Japanese Alpine News 2009』『山岳2008-2009』と、中国四川省在住の大川健三さんの美しい写真集



街角のあちこちに見られた案内板

『蜀山女神(四姑娘山山塊)』の3冊だけが展示されていました。ブックフェアで気づいたことですが、クライミングや探検、登山家の自伝的な本がイタリアではたくさん翻訳されているのです。ここにもイタリアには山岳文化が息づいている、と感じました。

ここでの私の講演は5月5日に行なわれました。静かなよい雰囲気の中、80名ほどが熱心に耳を傾けてくれました。クルト・ディームベルガー夫妻、アン・ツェリン元ネパール登山協会会長も来てくれました。ここにも『英文ジャーナル』と『山岳』が展示されていて、日本山岳会に対する気配りを感じました。

講演に先立って、新聞・テレビ・インターネットなど3回のメディアとのインタビューがありました。インタビューに際していつも感じることですが、難しいのは東チベットの地勢学的、文化的かつ歴史的背景を理解してもらうことです。登山探検にかかわることは、スライドショーの始めに解説しますが「チベットのアルプス」にはまだ2500座以上の未踏の6000メートル峰が残されており、最後のフロン

ティアであることを強調して、この山域の吸引力をアピールします。そして、チベットのアルプスは登ること以前に許可を取ることが厄介であることも付け加えます。

トリノのイタリア山岳会では期せずして日本山岳会を代表してレクチャーをすることになりました。4カ所での講演を終えて感じたのは、イタリアにはしっかりと登山文化が風化せずに根づいているということです。また、多くの新しい友人を得たことも収穫でした。

欧米でのイベントに出席し、講演をするたびに感じることは、いつも「一人旅(日本人1人)」であることです。最近、若手の気鋭クライマーが海外のクライミング・フェスティバルに参加し、昨年はフランスの「黄金のピッケル賞」を受賞しました。久しぶりに日本の存在感を示した(ダグスコットが絶賛していた)ことはたいへん明るいニュースでしたが、単発的で、総じて日本からの発信は少なく、海外の登山界から孤立している状況は変わりません。そのことが日本登山界の低調の一因かもしれません。日本登山界の再生を願うばかりです。

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です

学生部指導委員会

第四回日中韓三国合同登山

山岳部に入部してから1年が過ぎようとしていたある日、日本山岳会学生部の集会で、第四回日中韓三国合同登山の話があり、そこへの参加を促されました。

私は前回の三国登山に参加していましたが、そこで他大学の学生や、韓国・中国隊との交流という貴重な経験をすることができました。今回はホスト国としての役割も担うことになるので、おもしろそうだと考え、参加を決意しました。しかし、私が隊長に選ばれたときは、無事成功させられるかどうか不安でした。

準備段階で何より頭を悩まされたのは、日本隊メンバーが一度に集まれなかったことでした。前回同様、関東からの参加者は少なく、メンバーの所在地が関東・東海・

関西に分かれてしまっていました。そのため、メールを中心に話し合いを行ない、少しずつ前に進めていくしかなく、学生の意見がまとまりにくいように思えました。

しかし前回、日本がホスト国だったときに参加していた先輩や、理事の方々にも助けていただいて、準備を進めることができました。

今回は入国から帰国まで1週間だったので、初日の5月12日はオリンピックセンターに宿泊。次の日に上高地へ移動し、山研で山行へ向けた準備。そして、1泊2日の山行の翌日に東京へ移動し、1日東京観光をした後、帰国という日程になりました。

初日のスケジュールは成田まで迎えに行く人、東京の宿泊施設で待機する人、食料の買出しをする人、上高地に入り準備する人といった具合に役割分担を行ないました。なかでも、食料の買出しでは

東海支部の方にご尽力をいただき、本当に助かりました。

山行は人数が大勢いることもあり、3パーティに分け、目的地を槍ヶ岳、蝶ヶ岳、西穂独標に分けました。槍ヶ岳は槍沢から、蝶ヶ岳は長堀尾根から、西穂独標は夏道から行くルートをとりました。

パーティには、学生のリーダーのほか、本部や東海支部から来たスタッフの方々にもご同行いただきました。おかげで、どのパーティもケガなどの大きな問題もなく、無事に下山することができました。

その後の観光でも学生間で交流ができたようで、帰国の際にはみんな笑顔でお礼を言ってくれました。

今回の内容を振り返ってみると、個人的には反省点がいくつもあるように感じられます。しかし、やってみて、本当に良かったと感じています。

最後に、いつも陰で支えてくださった日本山岳会の理事の方々、東海支部のスタッフの方々、しっかりフォローしてくれた学生の仲間たち、本当にありがとうございました。

(高橋俊弘)

山研運営委員会

徳本峠越えとウェストン祭

6月5～6日、「徳本峠越えとウェストン祭」に参加しました。島々谷から徳本峠を越えて上高地に入り、山研に1泊して「碑前祭」に参加するというものです。各支部の参加者と運営委員も含めて総勢23名、東海支部からは私を含めて9名が参加しました。

6月5日6時10分、日本山岳会信濃支部長のあいさつを受け島々谷を出発。この日の徳本峠越えはウェストンを偲び、各地から集った山岳関係者と一般の登山愛好者で参加者は200人ほどでした。われわれJAC23名は、鈴木副運営委員長を先頭に、リーダーの柴山運営委員長のもと上高地に向かいました。

島々谷宿から、新緑の島々谷沿いの二股までの林道、二股からの島々谷南沢に沿って咲くニリンソウの群落を見ながら、多くの岳人がたどった歴史ある登山道を歩きました。岩魚留小屋を過ぎ、力水の水場あたりから登山道はジグザグの急登となり、残雪のなかを登ります。力水を一口のみ、一気に



明神、穂高をバックに徳本峠にて

徳本峠小屋を目指しました。そして15時、歓待を受けての「徳本峠小屋」到着にほっとしました。好天のなか、徳本峠から眼前に見る明神岳、穂高岳は壮観でした。徳本峠小屋からは残雪が多く、すっかりしたステップでの下山となりましたが、まさにアルプス登山の歴史を十分に実感させてくれました。「上高地山岳研究所」に18時到着。好天のなか、感動しながらの歩行でしたが、残雪が多く登山道で難渋。また、今年新たに発生した沢筋の崩壊場所の徒渉もあり、コースタイムが予定より遅れました。しかし、先頭の鈴木さんの終始ゆったりとしたペース配

分と適度の休憩で、長丁場の徳本峠越えに耐えられたと感謝しています。

山研での夕食・懇親会は、12時間近い歩行にもかかわらず、達成した高揚感もあり大いに盛り上がりしました。尾上会長のあいさつと運営委員の温かいもてなしなどに感謝です。

6日10時、「第64回ウエストン祭」は、日本山岳会の主催で開催されました。碑前祭として、ウエストンのレリーフ前で一般の方も含め多くの参加者を得て、2部構成で行なわれました。

第1部では、信濃支部長のあいさつと、安曇小学生男女2人の献花、安全登山を兼ねての物故者への黙祷。尾上会長は、「ウエストン祭は夏山シーズンを告げる風物詩となった」とあいさつ。来賓代表として松本市副市長のあいさつ、尾崎喜八の詩を信濃支部員が朗読。さらに、安曇小学生22人による合唱、合奏と続きました。

第2部では、昨日の徳本峠越えについて報告。また、成川常務理事の記念講演では、自らの登山体験を交えながら山の素晴らしさを語り、リーフレット「山を考える」

を参加者に配布して、「山の日」制定を訴えました。炎天下、参加者は熱心に聞き入り、「山の日」制定の必要性を十分に理解したのではないのでしょうか。

その後、場所を変えて西糸屋を会場に、関係者のみの午餐会ですべての日程を終了し、13時30分に散会。ウエストン祭参加記念にいただいた「記念手拭 奥穂高岳」と「タカネスミレの記念ブローチ」はよい思い出となりました。関係者のみなさん、本当にありがとうございました。

(梅村昭治)

有志閑談会

第52回「有志閑談会」を開催

今年で52回目を迎えた歴史ある会合の「有志閑談会」が6月5日、東京・芝の「とうふ屋うかい」にて開催されました。古い会員の吉村健児氏(会員番号3173)はじめ、山田二郎、大島輝夫、松田雄一、芳野赳夫、芳野菊子、芳賀孝郎氏など24名のご出席を得て、和気あいあいとしたひと時を過ごしました。

ご出席の山田二郎元会長からは、

50周年を迎えた慶応義塾大学のヒマルチュリ初登頂の際の余談をいただきました。

今後も「有志閑談会」は絶えることなく続ける予定で、来年は6月4日の会場を予約してあります。現在、有志閑談会のご案内は90名ほどの会員に差し上げておりますが、会員諸兄弟で今後出席をご希望される方は、私たち世話人までお申し出くだされば幸いです。

(神原達、里見清子)

支部

だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

東京多摩支部

サテライト・サロン活動

それっていったい何なんだ、と言われそう……。

東京23区と島嶼を除くすべてが、多摩の名称で呼ばれている。その多摩に私たちの活動舞台・東京多摩支部が発足した。JR中央線が新宿から立川までピーンと一直線に伸び、大動脈となっている。京王線、西武線、小田急線はいずれも新宿から多摩方面に向かって軌道を延ばしている。これら鉄道沿線の拠点となっている、立川・町田・吉祥寺・小平駅近くを会場とし、そこでクラブライフ活動を行なう。すなわち、ここでの活動をサテライト・サロン活動という。

今回の東京多摩支部立ち上げにより、仕切りがはつきりしたと言えるのではないだろうか。多士済々が集う23区エリアは、JAC

東海支部

第12回「東海岳人写真展」

3月23(26日、恒例となった「東海岳人写真展——山と自然のパフォーマンス」を、絵画展併設で開催した。

会場は名古屋市中区役所・朝日生命共同ビルにある「名古屋市民ギャラリー栄」で、中日新聞社共催、中部日本放送後援の協力を得て開催された。

会場には皇太子殿下の作品、夏の南アルプス仙丈ヶ岳で撮られた「雲表の稜線を行く」をはじめ、支部員と支部友65名の作品である、写真86点と絵画13点のあわせて100点が展示された。

会期中は天候不順で雨の日が多かったにもかかわらず、約600名の来場者があった。特に注目を集めたのは皇太子殿下の作品と、第10次インドヒマラヤへ遠征した熟年登山隊の作品で、多くの方々から質問がよせられた。

また、会場では日ごろから支部活動である「障害を持つ方への応援登山のボランティア」、「猿投の森づくりでの環境保全」、「安全に

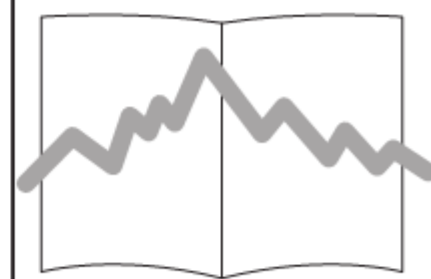


写真の前に撮影者より説明を受ける来場者の方々

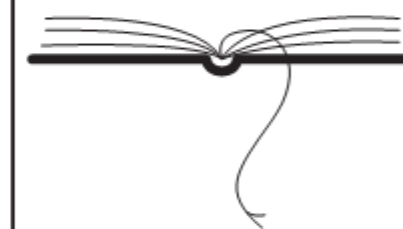
登山を楽しむ登山教室」、「最近発売したガイドブックの紹介」、「本年当地で開催される生物多様性会議COP10への協賛事業」への協力参加の実施などを来場者にアピールした。

写真展の開催にあたり、ご出展を賜った皇太子殿下に心より感謝してお礼を申し上げたい。また、ご多忙のなか来場・あいさつをいただいた尾上会長、写真展へのご指導をいただいた羽田栄治評議員両氏にお礼を申し上げます。

(箕浦靖夫)



図書紹介



『山の遭難 あなたの山登りは大丈夫か』

羽根田治・著



2010年1月
平凡社刊
新書判 255頁
定価 798円

山岳遭難に関するライターとしての著作が多い、羽根田治氏の近著である。取材豊富な著者だけあり臨場感のある事例が随所に散りばめられており、こうした本によくありがちな教訓的な口調でなく、あくまで実証的なアプローチが好感を持てる。

私は、山岳遭難に関する書籍が出版されると、たいてい目を通すことにしている。同氏の『生還 山岳遭難からの救出』『ドキュメント 気象遭難』『ドキュメント 道迷い遭難』『ドキュメント 滑落遭

難』（いずれも山と溪谷社刊）しかりである。書籍上ではあっても事前に追体験し、シミュレーションしておくことによって、いざ自分と同じ境遇に陥った際に、なんらかの役に立つのではないかと考えているからである。

私自身、遭難の二文字が頭によぎる体験をしたことは幸いにしてない。しかしながら、数々のドキュメントを文章にしてきた著者でさえ、ゴールデンウィークの西表島で遭難一歩手前の体験をしていることが「はじめに」で述べられている。「山の中にいるかぎり、人は誰でも常に遭難のリスクと背中合わせの状態にある」ということである。

本書はまず「第一章 山の遭難 小史」から始まる。青森歩兵第五連隊による八甲田山での遭難、気象学者の野中至夫妻の富士山越冬観測中の救助、加藤文太郎や松濤

明の槍ヶ岳北鎌尾根での死などから始まり、記憶に新しい昨年のトムラウシ山での大量遭難事故までが時系列的にコンパクトにまとめられている。

次に、「警察白書」や「レジャー白書」の統計に分析を加えた「第二章 統計が語る現代の遭難事情」、遭難救助の歴史と近代化について述べた「第三章 救助活動の現場から」、著者のこれまでの取材をもとに書かれた「第四章 遭難事故のリアリティ」、近年問題となっている「第五章 なぜ増える安易な救助要請」、そして最終章は「第六章 ツアー登山とガイド登山」で締められている。

たまたま、数日前に新聞紙上で「ツアー登山会社 マニュアルなし1/3」と報じられていた。昨年のトムラウシでの遭難事故を受けて観光庁がツアー登山を扱う旅行会社にアンケートを行なったところ、添乗員や山岳ガイドのための登山マニュアルを作成していないとの回答が3分の1以上にのぼり、業界団体に作成要請をしたというものだった。著者の言う「トンドモ登山者」や「自立していい登山者」だけでなく、一部のツ

アー登山会社の無責任さも露呈してきている。

昔の山岳会や山岳部のような育成システムにより鍛えられた登山者が少数派となった今日、やはり社会資本としての一定のセーフティシステムの構築と、登山者ひとりひとりの自立が求められることは言うまでもない。過去の教訓を生かすことから始めたい。

（木根康行）

会務報告

平成22年度第3回(6月度)理事会

日時 平成22年6月9日 18時30分～21時

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 尾上会長、神崎・宮崎・

藤本各副会長、成川・岡

部各常務理事、太田・相馬・

山川・野沢・中山・永田・

萩原各理事、深川・平井

各監事、近藤・酒井各常

任評議員

【委任】 堀井・谷川各理事

【欠席】 森常任評議員

審議に先立ち尾上会長から会長就任1年を振り返り所見・所信表明があった。そのなかで4つのプロジェクトを不断に推進してゆく決意を縷々述べ、とくに、新法人への移行・対応について年内にその方向づけをまとめる考えを表明した。続いて4つのプロジェクトチームからそれぞれの活動進捗状

況についての説明、報告とそれらに対する質疑、意見交換を行なった。

【審議事項】

1・支部長の交代(宮崎)

東海支部 新支部長・小川務(6

633)、前支部長・和田豊司(6

797) (承認)

2・日本山岳会ロゴマーク使用許可願(宮崎)

創立20周年を迎えるアルパイン

スケッチクラブから会旗にロゴマ

ークを使用したい旨の使用許可願

があった。(承認)

【報告事項】

1・通常総会報告(宮崎)

関西支部から4月21日開催の通

常総会報告があった。

2・日本勤労者山岳連盟創立50周

年記念レセプション(宮崎)

5月30日開催され、宮崎副会長

および成川常務理事が出席した。

3・(社)東京都山岳連盟総会(宮崎・藤本)

5月25日開催され、藤本副会長

が出席した。

4・第64回ウェストン祭(会長)

信濃支部の献身的運営のもと好

天に恵まれ盛会であった。恒例の

碑前講演は成川常務理事が「穂高

礼賛(山の日をつくろう)」の演

題で行なった。

5・上高地「山岳研究所」(以下、

山研)地デジ化(共同受信機の撤

去)ほか(太田)

テレビの地デジ化にともない共

同受信機を撤去する。

また、山研の水源である善六沢

が雪崩により崩壊し、増水時には

水質が濁って取水制限をしている。

回復までにはかなりの日時を要す

る状況にある。

6・同好会代表者交代(宮崎)

山遊会および山想倶楽部から代

表者がそれぞれ山本憲一(1

2391)、石原達夫(564

6)に交代したとの届出があった。

7・支部長会議開催(宮崎)

本年度第1回目の支部長会議を

6月12日に10時からルームで開催

する。

8・分境嶺踏査の開始(酒井)

東京多摩支部ではかねて計画中の分境嶺踏査の第1回踏査を大垂水峠を出発点として6月13日に開始する。

9・102号室改修工事(宮崎)

6月中には工事完了の見通しにある。

10・事務局夏休み(宮崎)

事務局の夏季休暇は8月16日か

ら21日の間の予定。

11・会報『山』六月号編集報告(神長)

〔第2回(5月度)理事会議事録の一部訂正〕(宮崎)

審議事項2・議事録記載に錯誤

があったため次の部分を訂正する。

基金及び積立金等に関する規定

の説明部分「その後財務委員会を

中心に検討を重ね」を「その後検

討を重ね」と訂正する。

ルーム日誌 6月

1日 図書委員会 スケッチクラブ

2日 常務理事会 自然保護委員

会 集会委員会

3日 海外委員会 フォトビデオ

クラブ

5日 東京多摩支部

7日 総務委員会 自然保護委員

28日	25日	24日	23日	22日	21日	19日	18日	17日	16日	15日	14日	11日	10日	9日	8日	30日													
緑爽会	海外委員会 システムPT	会報編集委員会 01会	委員会 麗山会	自然保護委員会 山岳編集	千葉支部 有志閑談会 スキークラブ	インターネット小委員会	総務委員会 資料映像委員会 フォトビデオクラブ	科学委員会 定款検討委員会 フォトビデオクラブ	山水会 つくも会 みちのり山の会	きわり会 00会	山岳研究所運営委員会 ゆ	会報編集委員会 スキークラブ	総務委員会 法人改革対応検討PT	自然保護委員会 山の自然学研究会 山想倶楽部	地理クラブ 山の自然学研究会	理事会 総務委員会 山岳	J A C Y O U T H P T												
立石斉二 (14148)	松田敏治 (14604)	西村一利 (13811)	西川博己 (13692)	石井日出男 (13609)	阿部光太郎 (13521)	樽見元雄 (13156)	北守 清 (13077)	宮澤 泰 (12923)	山田一志 (11956)	安藤幸明 (11910)	金子喜彦 (10955)	中村泰一 (10768)	中村久一 (10754)	佐藤征郎 (9524)	山崎 登 (9187)	小山峰男 (5915)	小田真道 (3126)	退会	小坂正男 (10654)	西村久志 (5689)	熊谷義信 (5123)	北島正八 (4354)	高島真一 (3729)	物故	会員異動(6月)	6月来室者11名	スキークラブ 高尾の森づくりの会		
東九州		北九州		宮城		北海道				信濃																			

当会の事務局長を公募します

会長 尾上 昇

今年度後期より、(社)日本山岳会事務局に事務局長を置くことにしました。自薦、他薦を問わず、就任を希望される方を公募します。

事務局長を置く理由は次の3点です。

- 1・現在事務局には、3名の女性職員がいます。しかしながら責任者(担当理事)が常駐していないために会員の要望や要請への事務処理が滞ったり、会員の意向が理事会や執行部になかなか届いていないのが現状です。事務局と理事会、委員会、さらには会員とのコミュニケーションの充実が求められています。
- 2・JACの役員には任期があります。担当理事や総務委員など日常の業務に通曉している担当者も任期が来ると自動的に交替します。後任の適任者が得られないとたちどころに業務に支障をきたします。また新しい事務局長には、会員サービス向上に向けての役割が期待されます。
- 3・新法人改革への対応が迫られています。公益法人か一般法人かのいずれの道を選ぶにしても、本年末より移行のための申請書類作成の作業が始まります。事務局に常駐してこれに対応する人が必要です。

勤務条件の要点は以下の通りです。

- 1・勤務時間 月曜日～金曜日の午後3時～午後8時
- 2・勤務場所 日本山岳会事務局 千代田区四番町5-4
- 3・報酬 年一定額 (ご相談させていただきます)
- 4・応募資格 会員、非会員を問いません。年齢も問いません。(55歳以上で男性を希望します)

応募なさる方に、以下の日本山岳会の特殊事情をご理解いただきたく思います。

日本山岳会は会員の会費によって運営される善意の任意団体です。会員の間に利害関係がなく、同好の士の集まる組織です。従って、会員と事務局との間に乖離があってはなりません。また、日本山岳会の各種集会は、曜日や時間を問わず、不規則ですので通常の勤務時間以外にも柔軟に対応していただくことが望まれます。ボランティアとしての要素が勤務に含まれます。

以上、申し上げたことをご理解いただき、応募にご興味のある方がおられたら、自薦、他薦を問わず遠慮なくお申し出いただくよう希望いたします。ご希望の方は8月末日までに総務担当の宮崎副会長あてにお申し出下さい。

支部活性化会員集会のお知らせ

すでにご案内の通り、第26回全国支部懇談会が9月5日、6日に東京多摩支部主管で開催されます。

会員の高齢化と数の減少が、遠くない将来、会に致命的な影響をおよぼすことを憂え、立ち上げられたのが支部活性化PTです。チームとして何回か会合を開き議論

をかさねながら、いまだに確たるコンセンサスを得られていないのが、「活性化とは何か」というテーマです。活動が生き生きとして活発である、はた目にも輝いて見えるなど活性化を表現する言葉はいくつもあります。しかしそれらをもたす元になるものは何か。支部活性化が会の大きな課題であることは、全会員の共通の認識である、われわれは思っております。そこで今回の支部活性化会員集会はテーマをここに絞って特に支部会員の生の声を多く聞く機会をつくり、討論を重ねたいと思います。支部活性化会員集会に向けて左記のお願いがありますので、よろしく協力ください。

- 1・会員の立場で活性化についてのレポートを提出して下さい。約2000字
- 2・レポートは何編でも可
- 3・提出期限 8月10日
- 4・提出されたレポートのうち、10編くらいを発表してもらう
- 5・提出先

郵送 日本山岳会 支部活性化係

メール 山本憲一 ttn@jac.or.jp

Fax 山本憲一 042-537-3457

図書受入報告 (2010年6月)

著 者	書 名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈／購入別
丹沢ネットワーク(編)	ウォーターウォーキング——誰でも楽しめる超カンタン沢歩き	151p/21cm	白山書房	2010	出版社寄贈
同人シルバータートル(編)	夢 時を越えてⅡ——中国・西藏カンリガルボ山群を中心とした山旅の足跡	127p/26cm	同人シルバータートル	2010	発行者寄贈
佐々木民秀・鈴木裕子(編)	日本山岳会秋田支部 創立50周年記念誌	124p/26cm	日本山岳会秋田支部	2010	発行者寄贈
日本山岳会秋田支部(編)	秋田山岳——秋田支部創立50周年記念誌(第2巻)	26cm	日本山岳会秋田支部	2010	発行者寄贈
神崎忠男(監修)	楽しい!日帰り山歩き入門——はじめてでも安心!	159p/21cm	主婦と生活社	2010	監修者寄贈
山森欣一	登山死亡遭難事故事例集(2010年版)	346p/30cm	山森欣一(私家版)	2010	著者寄贈
宮野芳一	山臥叢行	262p/22cm	蒼天社出版	2010	著者寄贈
米倉久邦	森をゆく——「人と森のかかわり」を訪ねて	221p/19cm	日本林業調査会	2010	著者寄贈
武井清(編)	武井清 山岳画選集——K.TAKEI 山への賛歌	21cm	武井清(私家版)	2010	編者寄贈

INFORMATION

インフォメーション



◆9月の北アルプス集中登山

山研&集会委員

槍ヶ岳・常念岳・穂高岳の一般ルート3コースから登り、各2泊3日の後、山研に集い上高地の夕べを楽しむ。

日程 9月23日(祝)〜26日(日)

・槍ヶ岳コース⇄表銀座⇄槍ヶ岳⇄上高地(燕山荘・槍ヶ岳山荘・山研)

・常念コース⇄燕⇄常念⇄蝶⇄同(燕山荘・常念小屋・山研)

・穂高コース⇄涸沢⇄北・奥・前穂高⇄岳沢(涸沢ヒュッテ・穂高岳山荘・山研)

集合 各登山口、解散は山研

募集 15名(各コース5名)

申込 8月31日までに希望コースを明記して、野崎和彦

03-3821-0825 FAX TEL

090-8961-1866

✉nozaki_kaz@yahoo.co.jp)

*申込者に詳細を送ります

◆第14回森の勉強会 西大台

東海・京都・関西支部共催

日程 10月16日(土)〜17日(日)

場所 奈良県上北山村

内容 16日13時ホテルかみきた集合(近鉄大和上市駅11時)、講演会(大台ヶ原の樹林

横田岳人氏他)

17日11時大台ヶ原の森観察、16時解散(近鉄大和上市駅17時)

費用 2万1000円(1泊3食、送迎バス、立入申込手数料他)

定員 27名(先着順)

申込 9月30日までに、関西支部の斧田一陽(☎567-0862 大阪府茨木市美沢町11-110)

3 TEL & FAX 07246336556

*申込者に詳細を送ります

◆生物の多様性を探るマダガスカル縦断自然探索海外巡見

植物・動物の多様性、豊かさで世界有数のマダガスカル島。その島で生物の多様性を実感する海外巡検です。

日程 9月25日(土)〜10月6日(水) 12日間

行程 成田発着。イサロ国立公園、ラヌマファナ国立公園、アヌシ湖などを観察。

費用 41万8000円(参加者10名のと看)〜45万8000円(参加者15名のと看)、他に要サーチャージ

申込・問合 8月25日までに、船橋明 FAX 04673243011

*旅程詳細を希望の方は連絡ください。お送りします

◆田淵行男写真展「知ることとは愛すること」

武蔵野市立吉祥寺美術館

会期 8月7日(土)〜9月12日(日) 10時〜19時30分

入館料 1000円(小学生以下・65歳以上・障害者は無料)

協力/田淵行男記念館、田淵行男記念館開館20周年記念事業実行委員会 後援/安曇野市、安曇野市教育委員会

山の自然学研究会

植物・動物の多様性、豊かさで世界有数のマダガスカル島。その島で生物の多様性を実感する海外巡検です。

日程 9月25日(土)〜10月6日(水) 12日間

行程 成田発着。イサロ国立公園、ラヌマファナ国立公園、アヌシ湖などを観察。

費用 41万8000円(参加者10名のと看)〜45万8000円(参加者15名のと看)、他に要サーチャージ

申込・問合 8月25日までに、船橋明 FAX 04673243011

*旅程詳細を希望の方は連絡ください。お送りします

◆田淵行男写真展「知ることとは愛すること」

武蔵野市立吉祥寺美術館

会期 8月7日(土)〜9月12日(日) 10時〜19時30分

入館料 1000円(小学生以下・65歳以上・障害者は無料)

協力/田淵行男記念館、田淵行男記念館開館20周年記念事業実行委員会 後援/安曇野市、安曇野市教育委員会

訂正

6月(781)号、4段2行「宮尾盤宮内庁次長と同じ高校の先輩なので、私から連絡した」は、「宮尾盤宮内庁次長も私と同じ高校の先輩なので、私から連絡した」に訂正いたします。

◆編集後記◆

●平成22年度の通常総会が開かれました。ほぼ満席で、しかも活発な意見交換が行なわれました。会場にいと、執行部と会員の意識に大きな差は感じられないのですが、「活性化」はまだのようです。

●7月、梅棹忠夫名誉会員の訃報が入ってきました。高齢になられてもなお、「未知への探求」と執筆には情熱をもっていたらしいやい

ました。眠るように逝かれたようですが、またひとり、偉大な先人を失いました。

(神長幹雄)

日本山岳会会報 山 782号

2010年(平成22年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビューハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 尾上昇

編集人 神長幹雄

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社